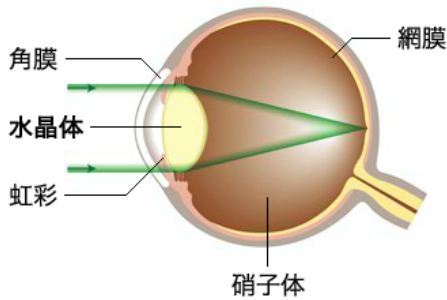


白内障

■ 白内障の症状

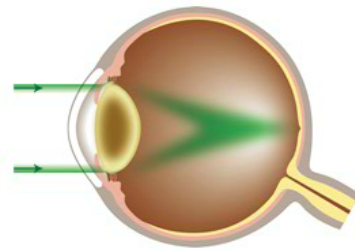
水晶体は眼の中でレンズの役割をする組織です。正常な水晶体はほぼ透明で必要な光を十分に通しますが、水晶体がにごると光が十分に通らなくなります。これが白内障です。主な原因は加齢です。

正常な眼



透明な水晶体は光を十分に通します。

白内障の眼



水晶体がにごり、光が通りにくくなります。

白内障になると、もやがかかって見える、ものがかすんで見える、明るいところで眩しくて見えづらいなどの症状が現れます。水晶体のにごり方は患者さんによって異なるため、症状も様々です。

正常な見え方



※イメージ図

白内障の見え方



※イメージ図

もやがかかって見える、明るいところで眩しいなどの症状が現れ、見えづらくなります。

■ 白内障の種類と原因

水晶体は主にたんぱく質と水でできています。たんぱく質は、加齢や、長年にわたる紫外線曝露など、さまざまな影響を受けて、だんだんと変化し白く濁ります。その結果、水晶体全体が濁り、視力の低下を招くこととなります。白内障はさまざまな原因で起こりますが、最も多いのは加齢によるもので、これを「加齢性白内障」と呼んでいます。個人差もありますが、誰でも年をとるにつれ、水晶体は濁ってきます。加齢性白内障は一種の老化現象ですから、高齢の人ほど多く発症します。

白内障の種類	原因
加齢性白内障	加齢
全身疾患に合併する白内障	アトピー性皮膚炎、糖尿病 など
先天性白内障	風疹 など
外傷性白内障	目のけが など
併発白内障	ぶどう膜炎 など
その他	放射線、薬剤（ステロイド剤）

■ 白内障の治療

1) 仕事や生活に支障が出ていない初期の場合

初期の段階（視力の低下や目のかすみが日常生活に支障がない）では、ピレノキシム製剤やグルタチオン製剤による点眼治療が基本です。ただし、薬を使用しても水晶体が透明に戻るわけではなく、あくまで白内障の進行を抑えることが目的です。

2) 仕事や生活に支障が出てきた場合

白内障が進行して日常生活に支障がみられる場合には、外科的手術が行われます。現在では「超音波乳化吸引術」が一般的です。この手術では、濁った水晶体を超音波で粉碎して取り除き、その代わりに人工水晶体である眼内レンズを挿入します。白内障の手術は、水晶体の状況にもよりますが、多くの患者さんが安心して受けることができる手術の1つです。また、手術を受け水晶体の濁りが取り除かれれば、視力の回復が見込める病気です。ただし、人工的な眼内レンズにはピント調節機能はないため、手術後もメガネによる視力の矯正が必要です。

■ 白内障手術

現在、白内障の手術は主に、濁った水晶体を超音波で砕いて取り出し（超音波水晶体乳化吸引術）、眼内レンズを入れるという方法で行われています。しかし、白内障が進行して、核が固くなっている場合は、水晶体の核を丸ごと取り出すこともあります（水晶体囊外摘出術）。

■ 白内障手術



■ 日帰り白内障手術について

当院では毎週火曜日の午後に日帰り白内障手術をおこなっています。

ここ数年の麻酔や手術術式の進歩により、手術は日帰りで、また麻酔時や手術中はもちろん、手術後も強い痛みを感じることはありません。また、手術後すぐに帰宅できますので、食生活や環境の変化がなく、翌日から普段の生活リズムを営めるので、多くの患者様から喜んでいただいています。